

テーマ:「グローバル社会に求められる企業と NGO のパートナーシップとは ～新たな関係のあり方を探る～」連続勉強会

第 1 回事前勉強会

【1. 実施枠組み】

日時 2007 年 10 月 11 日 (木) 14:00 - 16:00
 会場 早稲田奉仕園 スコットホール 222 号室
 使用言語 日本語
 参加者 14 名 (NGO 関係者のみ、主に広報やマーケティング・渉外担当者)

【2. 概要】

時間	項目	担当者
14:00 ～ 14:05	開講挨拶	下澤 嶽氏 (JANIC 事務局長)
14:05 ～ 14:50	『企業の社会的責任 (CSR) と NGO の接点～経団連の視点から～』	金田 晃一氏 (株大和証券グループ本社)
14:50 ～ 15:35	『NGO とのパートナーシップ: 思考プロセスと決定要因』	
15:35 ～ 15:55	質疑応答	参加者
15:55 ～ 16:00	閉講挨拶	JANIC

【3. 講義内容】

第 1 回事前勉強会は、講師に大和証券グループ本社 CSR 室専任担当の金田晃一氏を迎え、CSR における企業の思考、つまり、企業はなぜ CSR または社会貢献活動を行うのか、NGO と連携する上で何を求めているのか、を学ぶことを目的に開催された。主な内容は下記①②の通りである。

①:『企業の社会的責任 (CSR) と NGO の接点～経団連の視点から～』

社団法人日本経済団体連合会 (経団連) の発行する「企業行動憲章 実行の手引き (第 5 版)」第 6 章「良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う」を読み解いた。同内容は実際に多くの企業が社会貢献を行う際に参考及び指針にしているものであり、今回参加者はその内容を読み理解することにより、企業の社会貢献に対する基本姿勢を理解することができた。アンケートからは「自団体ではどのように同憲章に絡めた連携の提案を出来るかを考える良い機会となった」という意見が聞かれた。

②後半:『NGO とのパートナーシップ: 思考プロセスと決定要因』

現在第一線で CSR 活動を行う金田氏より、最新の企業の CSR における「領域モデル、推進モデル、実践モデル、動機モデル」について解説した。CSR と一言で言っても、多様な領域、推進方法、実践方法、動機があることが指摘された。またその中で、NGO との連携がどのように位置付けられることが出来るかを考察した。

また、企業と NGO との関係について、その諸局面（対立もしくは協調もしくは同質など）やその具体例を学び、「企業と NGO は資金供与だけの関係ではなく、相互に批判、支援しあう関係もあり、大変多様なものである」という理解を深めた。

金田氏より、今後の NGO 側の課題として以下 2 点の投げかけがあり、現地 NGO への橋渡しとしての日本 NGO の役割や、「現地-現地アプローチ」実現のための、企業の現地法人や商工会議所などへの働きかけの重要性を参加者が考える契機となった。

- ・日本における現地 NGO の紹介機能と報告機能、アカウンタビリティの強化
- ・「現地-現地アプローチ」の強化（現地ニーズの発信）

最後に、金田氏より、企業の CSR 担当者間ネットワークと比べて、NGO 側の渉外担当者間のネットワーキングが脆弱であるという指摘があり、「情報共有プラットフォーム」の必要性についての提言があった。この構築の実現は、今後取り組むべき課題であることが、参加者によって認識された。この構築の役割においては金田氏だけでなく参加者からも JANIC への期待が感じられた。

【4. 附則：プレゼンテーション資料】

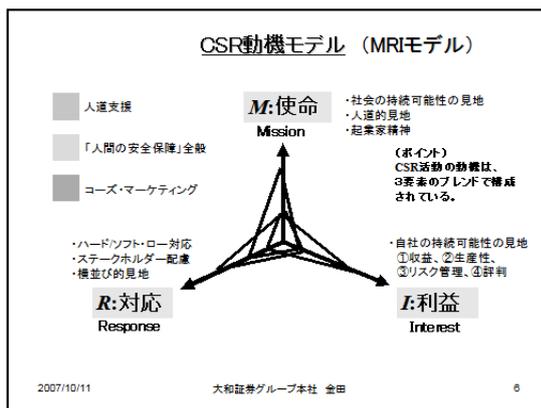
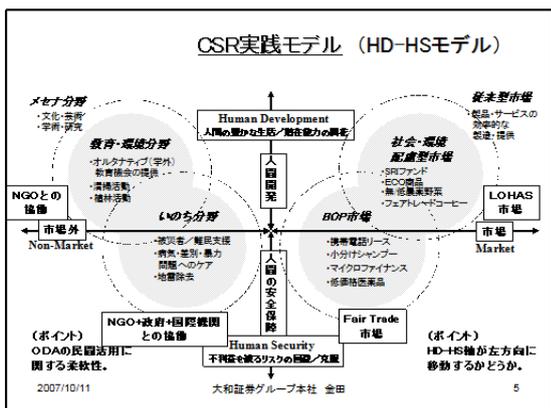
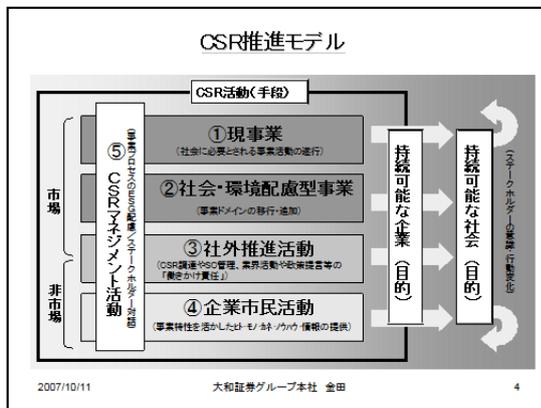
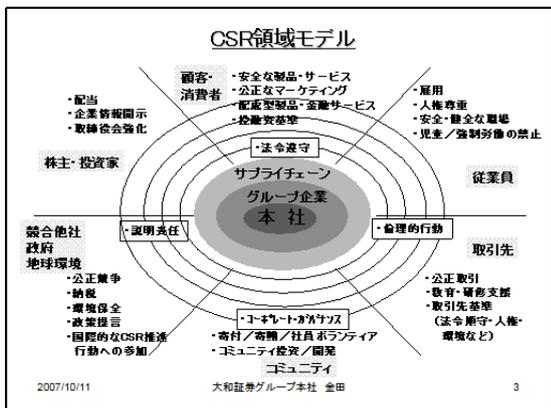
「グローバル社会に求められる企業とNGOのパートナーシップとは」
 第1回勉強会
**NGOとのパートナーシップ
 思考プロセスと決定要因**

2007年10月11日
 大和証券グループ本社CSR室
 金田見一

1. CSRモデル

- ・領域モデル
- ・推進モデル
- ・実践モデル
- ・動機モデル

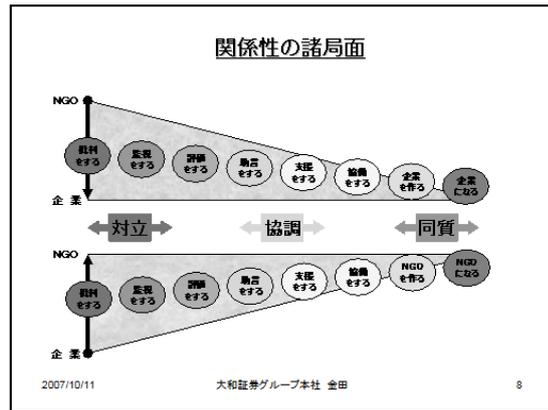
2007/10/11 大和証券グループ本社 金田 2



3. 企業とNGOの関係

- ・「対立」局面
- ・「協調」局面
- ・「同質」局面

2007/10/11 大和証券グループ本社 金田 7



NGO-企業関係 (NGOによるアプローチ例)

- ・企業を批判する (例: 企業行動是正キャンペーン)
- ・企業を監視する (例: 情報収集活動)
- ・企業を評価する (例: CSRアンケート調査)
- ・企業に助言する (例: HIV教育、CSRコンサルティング)
- ・企業を支援する (例: 従業員の福利厚生サービス)
- ・企業と協働する (例: 社会プログラム開発、商品開発)
- ・企業を作る (例: 別組織の設立)
- ・企業になる (例: 社会的企業化)

2007/10/11 大和証券グループ本社 金田 9

企業-NGO関係 (企業によるアプローチ例)

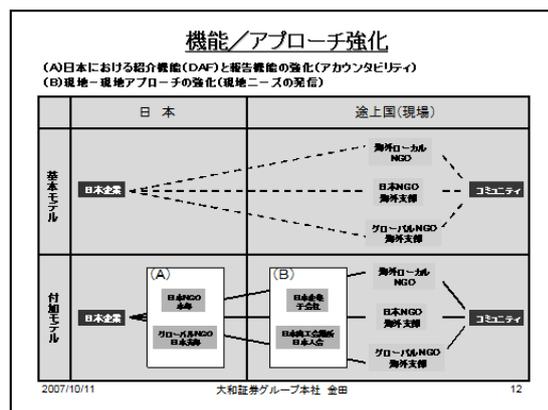
- ・NGOを批判する (例: 米国で税制優遇に関して議論)
- ・NGOを監視する (例: 以前、欧州で問題に)
- ・NGOを評価する (例: パートナー探し)
- ・NGOに助言する (例: 経営ノウハウ、説明責任)
- ・NGOを支援する (例: 寄付・寄贈・社員ボランティア)
- ・NGOと協働する (例: 社会プログラム開発、商品開発)
- ・NGOを作る (例: 企業財団設立)
- ・NGOになる (例: 将来的には?)

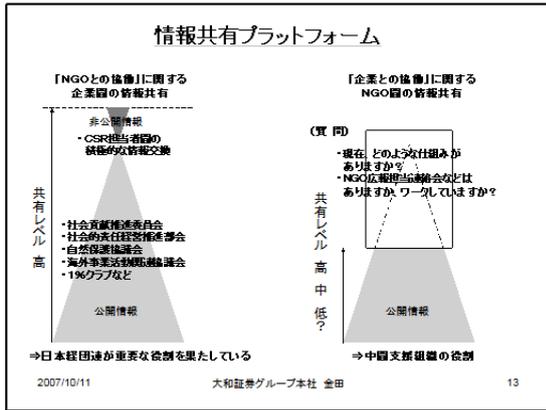
2007/10/11 大和証券グループ本社 金田 10

3. NGO側の課題

- ・機能/アプローチ強化
- ・情報共有プラットフォーム
- ・開示から対話へ

2007/10/11 大和証券グループ本社 金田 11





- ### 開示から対話へ
- (選択要因 その1)

 - ・どの課題分野(ex.教育、保健、文化交流など)か
 - ・どの活動分野(ex.支援、調査、提言など)か
 - ・どの活動地域(ex.アジア、中近東、アフリカ、中南米など)か

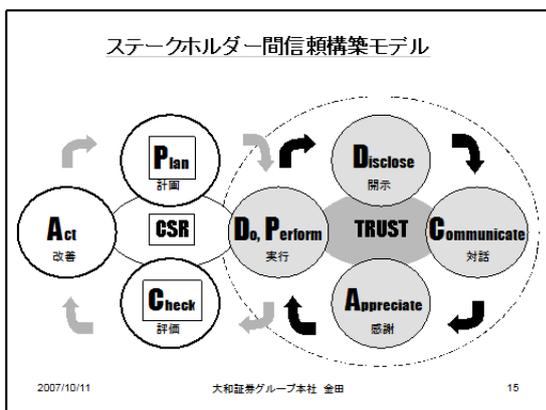
(選択要因 その2)

 - ・免税措置があるか
 - ・他団体に無い強み(ex.提案力、専門性、先見性など)があるか

(決定要因)

 - ・詳細な報告書(活動、資金使途など)を提出できるか
 - ・組織としてしっかりしているか(規模、スタッフ数、予算など)
 - ・代表者が信頼でき、後継者がいるか

これらの情報を企業が認識しているか？
- 2007/10/11 大和証券グループ本社 金田 14



- ### チェックポイント
- *「DとCの間に深い溝」と「人間的側面の考慮」**
- P: Perform** やるべきことをやる、言ったことはやる
(信頼関係の前提として、アピールできる実績があるか?)
- D: Disclose** やったことは適切に開示する
(適切な内容、タイミング、方法で開示しているか?)
-
- C: Communicate** 重要な相手と対話する
(伝えたい相手を特定し、対話を通じて相手に伝わっているか?)
- A: Appreciate** 相手の考えを理解し、相手に感謝する
(失礼な態度や姿勢をとっていないか? 「気づき」に感謝しているか?)
- 2007/10/11 大和証券グループ本社 金田 16